

## 津田から藤坂・王仁公園へ

(第100回くらわん会 2004/10/05)

台風22号は南方遙か海上にあるので安心していると秋雨前線の影響で明け方からの雨である。今回は、くらわん会100回目の記念すべき例会である。丁度、2年前もこのコースは雨でコース変更をした記憶がある。本来なら、JR津田駅から国見山に登り、野外活動センターを抜けて穂谷のコスモスの里へ出るという予定であった。しかし、無情の雨には逆らえずコースを変更。だが、雨にもかかわらず元気なくらわん会のメンバー62名が集まった。

定刻になり、原会長の元気な挨拶でスタート、今回はくらわん会がいかにかパソコンを有効に活用し、ホームページの開設や事務処理を正確且つ迅速に行っているかをPR。続いて多数回賞の授与。多数回賞は100回目に相応しく、初めて夫婦のダブル授与となり、75回賞が三好郁男様で50回賞が奥様の三好律子様という目出度いこととなりました。

コースはリーダーの判断で、前回は西へ歩いたので今度は東のほうということで距離も短縮し、JR藤阪駅から王仁公園とした。少し小雨になった中を出発、JR津田駅東側のガードをくぐり駅の裏側にでると、そこは住宅が開発されてマンションが立ち並び、2年前と様相が様変わりしていた。

雨がまた一段と強くなった中を、津田元町の旧家の多い街に入る。先ほどのマンション街とは違って変わり、柿の木が色づいた農家の広い屋敷に挟まれた狭い小道を傘の列が進む。途中、地元の氏神様を祀る春日神社の前をとおり、車の多い307号線を横切る。

少し進み、穂谷川を渡ると両側に黄色く稲穂が実る田圃がひろがる。道端の畑の一角には一株のコスモスや蝦夷菊なども植えられていて、雨で曇りがちな私達の心を和ませてくれる。田圃の畦道にはススキが穂を出して季節の進んでいることを実感する。雨が激しくなったころJR藤阪駅に着く。ここで小休止し、天候の状態により一次

朝会で原会長から百回記念行事関係の詳しい説明を受ける



雨の中JR津田駅に集まったのは六十二人



津田高校生の壁面に飾られたJRの地下道を潜って駅裏に向かう



マンションが立ち並び日々様子を変える津田駅付近を出発





農家の広い屋敷に挟まれた狭い小道を傘の列が進む



津田元町に一步足を踏み入れると景色は一変、旧家が現れる



穂谷川を渡ると両側に黄色く稲穂が実る田圃がひろがる、稲穂も垂れてまもなく稲刈り



道端の畑に植えられたアスター(蝦夷菊)の花

解散。

有志のみ王仁公園へと歩く。途中旧田中家鋳物資料館に立ち寄り、母屋に飾られた民俗資料としても器具類や、工場後の鋳物製造の歴史や資料を見学する。雨にけぶる公園は人影もなく、今夏の猛暑で賑わったプールもその役目を終え、静かに水をたたえたままである。プールの観覧席の下の雨がかからない処をお借りし、弁当をひろげる。次回、19日の100回記念イベントが晴天のうちに開催されることを期待して一層激しくなった雨の中を帰途についた。

富田朝己記

第二京阪道につながる新道が出来るとは渋滞の難所だった国道307号線を横断



穂谷のコスモス畑には行けなかったが、雨にゆれるコスモスの株で我慢



残暑が長く夏の花、向日葵もいまだ元気に咲いていて夏秋混在





穂谷のコスモス畑のように多くは無  
いが雨の中歓迎してくれるコスモス



JR藤坂駅に到着、雨は降り止まず  
ここで解散



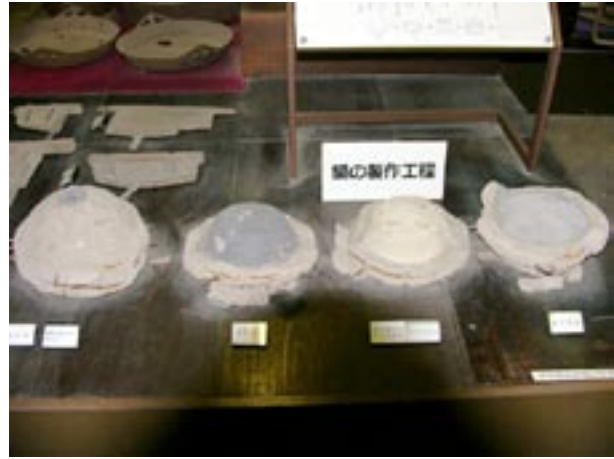
雨が激しくなり本日はJR藤坂駅で解  
散



枚方市が譲り受け万年寺山から移設し  
た旧田中家鋳物資料館、王仁公園入り  
口にある



枚方市が昭和46年からの17年かけ  
て藤阪天神町に工場と母屋を移築復元



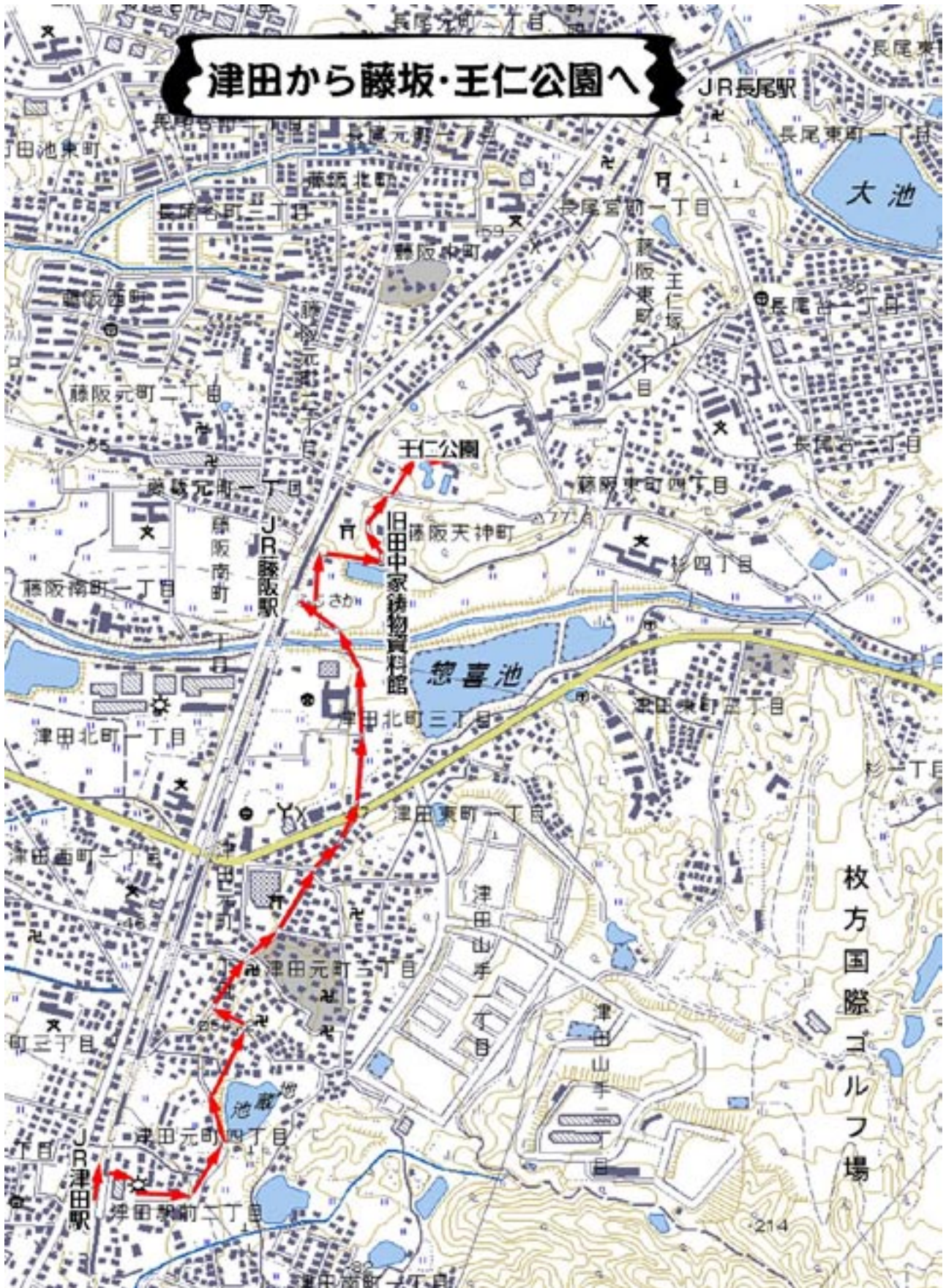
場は鋳物の歴史の資料館として再現、  
梵鐘づくりから農具や日用品生産もし  
た



母屋は生活用具の民俗資料館になっ  
ている



王仁公園内には市内在住の歌人が詠ん  
だ句碑も建てられている



<行程>

J R津田駅 ⇒ 津田元町 ⇒ J R藤阪 ⇒ 王仁公園 距離 3 km

2004年10月05日(火) 第100回例会 62名参加